

水産庁長官 藤田 仁司 殿

スルメイカTACの的確な運用と小型いか釣り漁業の 経営安定対策を求める要望書

我々小型いか釣り漁業者は、持続可能な小型いか釣り漁業を目指し、資源管理と操業秩序の維持に努めるとともに、国民へ安全・安心で美味しいイカ類を提供するため、日々操業に勤しんでおります。

また、昨年度のスルメイカTACに係る混乱を踏まえ、小型いか釣り漁業者は、漁獲報告の迅速化をはじめTACの適切な運用に自ら取り組みを進めております。

しかしながら、単年性で資源評価が難しいことから、スルメイカTACの運用については、資源評価とイカ釣り漁業者の肌感覚に乖離があり、的確なTAC枠の設定が、長年の課題となっております。

一方、昨今のイラン情勢に伴う漁業用燃油・資材価格の高騰や需給のひっ迫は漁業経営を大きく圧迫しております。

加えて、近年、クロマグロの大型化や資源増加に伴い、針・錘・ワイヤー等の漁具損失、漁具の絡まり等の修復作業、クロマグロの出現により操業断念や漁場の移動を余儀なくされるなどの被害が全国各地で高頻度に発生しており、小型いか釣り漁業の経営に追い打ちをかけております。

については、小型いか釣り漁業の灯を将来に残し、国民にスルメイカを安定的に供給するため、次の事項を求めるものであります。

記

1. 単年性魚種の特性を踏まえ、最新の漁獲状況や調査結果の資源評価への反映とTACの的確な運用
2. クロマグロによるいか釣り漁業の漁具被害や操業機会逸失への対策および被害軽減のためのクロマグロ漁獲枠の大幅増枠による採捕推進
3. 漁業経営セーフティーネット構築事業（燃油）の継続・強化

2026年7月

一般社団法人 全国小型いか釣り漁業協会
代表理事会長 三 國 優